

『本願寺 鹿児島別院 (その2)』

かくれ念仏の歴史①

鹿児島に、親鸞聖人を開祖とする浄土真宗が伝わったのは、室町時代中期1505年ごろと言われています。ここから日本の歴史でも他に類を見ない、約300年の長きにわたる薩摩浄土真宗への過酷な弾圧の歴史は始まります。

浄土真宗のみ教えが人々の間に流布すると、為政者による浄土真宗排斥の気運が生じました。それは「阿弥陀如来の前には、全ての生きとし生けるいのちは等しく尊い」という浄土真宗の教えが、当時の封建体制に相添ぐわなかったからです。そして真宗信者の結束力による統一的な行動が、政治的に利用され、一向一揆へと進展する危険性をはらんで、封建体制にとっては危険を感ずるものであったからと言われています。

以来、真宗信者の摘発は続きますが、慶長2年(1597)2月22日、第17代島津義弘によって正式に真宗が禁止されたのでした。

弾圧は厳しく、特に郷士層への摘発がなされ、身分を百姓へ移し、また居住地をも移すという処分が行われましたが、これは士分の削減と兵農分離政策をおしすすめる、近世的支配体制を確立しようとする薩摩藩の政策と大きく関係したものであると思われま。

幕末期の天保6年(1835)、弾圧は極みに達し、この時期に摘発された本尊は二千幅、門徒は14万人以上と言われ、弾圧と殉教の悲話は現在に伝えられています。

このような弾圧の続くなか、真宗信者は講(地域ごとの信仰者による集まり)を結成し、ひそかに山深い辺土や船上やガマ(洞穴)の中で法座を開き、また肥後水俣の源光寺や西念寺に聴聞に赴き、信仰を存続しました。花尾念仏洞、田島念仏洞、立山念仏洞など、現在も鹿児島、宮崎の各所にその遺跡は残存しています。



朝倉念仏洞：朝倉地区の山深い場所に位置する。洞窟はクランク型になっていて、珍しい形である。



田島念仏洞：石碑に彫られた言葉に胸を打たれる。「念仏はいのちなり念仏はちからなり…」



立山念仏洞：奥行き4m、更に左奥へ6mのガマ。一向宗禁制から明治まで、役人の取締りを逃れて礼拝した場所。

今後の法要スケジュール

「永代経法要」 (善教寺本堂)

四月 十三日(土) 朝席：午前10時

朝席：午後一時半

講師 服部法樹師 (呉市豊浜町登照寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要 (善教寺本堂)

四月 十六日(火) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「安居会(夏の法要)」 (善教寺本堂)

六月 二十二日(土) 朝席：午前10時

朝席：午後一時半

講師 松枝崇師 (東広島市河内町入野長照寺)

*送迎マイクロバスを運行します。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp